

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和4年4月

（1）与論初、さといもでドローン防除が始まる！（R4.4.14～15）

4月14日、15日にドローンによる薬剤散布がさといもほ場で実施されました。さといもの防除の実証と省力化を図るため、疫病対策としてドローンによる委託農薬散布を農業普及課が提案し、実現したものです。

2月に実演会を実施し、小規模なほ場が多く、風も強い等の問題を確認し、今回は以下の対策を取って行いました。

- ①近隣ほ場農家への散布同意確認
 - ②ドリフトの恐れがある場合、ほ場周辺は手散布する
- 今後、5月に2回目の散布を行い、延べ31戸4.3haで防除予定です。



（2）「咲八姫（さくやひめ）」沖永良部から初出荷！（R4.4.8）

4月8日、沖永良部からテップウユリ八重品種「咲八姫」が初出荷されました。地域では「咲八姫」の切花生産振興に取り組んでおり、農業普及課は令和3年度に、えらぶの花推進協議会と取り組んだポストコロナ事業を活用し、1月・3月・4月作型の試験栽培や「咲八姫」専用の出荷規格等を検討しました。

管理方法や栽培特性を地域で共有した結果、現在島内で6戸の生産者が4月作型で栽培し、順次出荷中です。今後も安定生産に向け、地域と連携して栽培支援を行って参ります。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和4年5月

（1）新規飼料作物有望品種トランスバーラの実証ほ設置

大島郡での新たな飼料作物として期待の高い「トランスバーラ」を、和泊町の実験農場、与論町の農家借上ほ場で栽培し、実証を行っています。

この飼料作物は、栄養繁殖であるため初期生育がポイントとなることから、播き苗区、セルトレイ苗等を植えた区、株を移植した区、ローズグラスとの混植区を設け、その差を確認・調査する予定です。

近年、家畜飼料費の高騰が問題となっており、畜産農家自ら飼料を生産し、自給することが重要です。

農業普及課は、今後ほ場を使った現場研修を開催し、「トランスバーラ」の紹介や導入推進を図っていきます。



実証ほ設置（播き苗区）



育苗（セルトレイ苗）

（2）与論町農作業受託調整組織設立委員会の開催（R4.5.12）

5月12日、与論町のさとうきび作業受託者代表を含む14人が参加し、農作業受託調整組織設立委員会が開催されました。

会では、町担当者から目標とする組織体制や計画についての説明があり、徳之島の事例を参考に受託調整組織の設立を進めることとなりました。

3年間の実証事業を活用し、本年度はさとうきび夏植えの作業に限定した実証を行い、問題点等を整理・検討する計画です。

農業普及課は、今後も組織設立と運営支援を行って参ります。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和4年6月

1 畑かん営農推進協議会総会と畑かんマイスター委嘱状交付式開催（R4.6.13）

6月13日、知名町フローラル館にて沖永良部島畑地かんがい営農推進協議会総会が開催され、委員と幹事、畑かんマイスターなど約30人が参加しました。

総会では、昨年度はコロナの影響により活動が計画通りにできなかったことから、今年度は積極的な活動に取り組むことが申し合わされました。総会后、畑かんを積極的に活用している農家から、今年度新たな2人を含めた7人が「畑かんマイスター」として委嘱されました。

今後とも関係機関と連携して畑かん営農の推進を図っていきます。



2 新規飼料作物「トランスバーラ」の現地研修会を開催（R4.6.22）

6月22日、与論町のトランスバーラ実証展示ほで近隣の畜産農家を対象に自給飼料現地研修会を実施し、約30人の参加がありました。

参加者は6月9日に植え付けた苗を見ながら、土を十分に鎮圧し、水分を保たなければ活着しないことを学ぶとともに、他牧草との見分け方、今年度発生が確認されたローズグラス褐点病の実物による説明に大変興味を持っていました。

研修会後は、トランスバーラのセルトレイ苗配布も行ったので、今後栽培面積の拡大が期待されます。



3 スプレームスマートフラワー実証の評価を秋田・山形で行う（R4.6.15～16）

沖永良部花き専門農協は、加工業者や花屋のゴミ削減と流通コスト低減が期待できるスプレームのスマートフラワー（長さを通常より10cm短くし35cm脱葉した規格）実証に取り組み、6月15～16日に秋田・山形の市場や加工会社で評価を行いました。

今回の実証では、コスト低減できる出荷箱の耐久性を確認でき、スマートフラワーの切り花品質、脱葉の取組は高く評価されました。

今後もさらにスマートフラワーの普及促進の支援を継続していきます。



4 与論島の指導農業士会主催の現地就農トレーナー研修会でソリダゴ生産者が病害虫対策や輸送事例等を学ぶ（R4.6.22）

6月22日、与論町役場で指導農業士会主催のソリダゴ研修会を開催し、生産者、関係機関を含めて10人が参加しました。

与論島の重要病害虫であるコナジラミ類や赤さび病等の対策、沖永良部の鮮度保持シートを活用した横箱輸送やバガスをマルチ被覆した品質改善対策の事例を紹介したところ、積極的な質疑や活発な情報交換をすることができました。また参加者は県外の輸送事例についても大変興味を示しました。

今後も現場のニーズにあった研修会を実施します。



5 与論町で家族経営協定の締結が進む（R4.6.17）

6月17日、与論町で畜産農家1戸の家族経営協定調印式を開催し、役場、農業委員会など8人が参加しました。

後継者の就農に伴う親子間の協定で、アニマルウェルフェアを取り入れた「家畜と人にやさしい農業」、「地域に根ざした経営」を目標とし、経営主、後継者の双方の意志が尊重された内容が盛り込まれました。

沖永良部管内では令和元年から毎年1戸締結が行われており、与論町では昨年も耕種農家が締結しています。

今後も家族経営協定の推進を通してよりよい農業経営に繋げるよう支援を行っていきます。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和4年7月

1 バイヤーと花きのマーケティングについて意見交換を行う（R4.6.29）

6月29日、知名町フローラル館にてえらぶの花マーケティング研修会が開催され、沖永良部島内の生産者や関係者等35人が参加しました。

福岡のバイヤーから自社のSNS発信、SDGs等の取組の紹介があり、産地自ら情報発信することや、物流コストを下げるための商品作りが提案されました。参加者からは『沖永良部に求められる花づくりを考えるよい機会になった』との意欲的な感想が聞かれました。

今後もブランディングやPR等の活動を国内外のバイヤーと連携しながら進めていきます。



2 新規就農者を励ます会開催（R4.7.6）

7月6日、和泊町で開催した新規就農者励ましの会に、沖永良部島内の新規就農者、指導農業士、青年農業者等23人が出席しました。

新規就農者への支援内容や農業青年クラブの活動紹介後、出席した4人の新規就農者からは、今後の営農に関する抱負が語られました。

また、和泊町長、知名町長からの励ましの言葉や簡易簿記帳やホワイトボード等記念品贈呈が行われました。今後も、農業普及課は新規就農者に対し関係機関・団体等と連携した研修会の開催や個別支援を行っていきます。

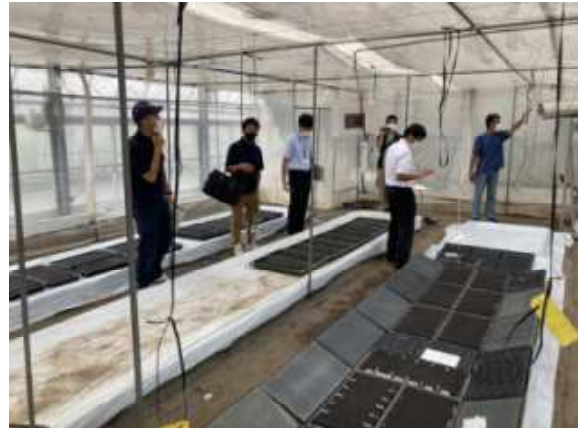


3 与論町トルコギキョウ部会，育苗技術及び市場ニーズを情報収集（R4.7.12～15）

7月12～15日，与論町花き振興会トルコギキョウ部会は，福岡，熊本で育苗・栽培管理技術及び市場ニーズの情報収集を行い，生産者，関係機関の担当者併せて6人が参加しました。

部会ではトルコギキョウの適品種の選定，安定した品質の苗作りを模索しており，今回，育苗及び栽培管理技術のみならず近年の消費傾向，求められる品種等を把握する貴重な機会になりました。

今後は関係者と得られた情報を整理し「稼げる農業」に繋げていきます。



4 さとうきび耕畜連携実証実績研修会の開催（R4.7.22）

7月22日，与論町糖業振興会総会と併せて，耕畜連携によるさとうきび実証の実績研修会を開催しました。

生産者代表や関係機関合わせて28人が参加し，堆肥投入によるさとうきびの収量・品質や土壌への影響，さとうきび栽培における労働時間や経費への影響について実証結果を説明しました。

後日，畜産部門でも実証実績研修会を実施する予定であり，農業普及課では，今後も耕畜連携のシステム確立に向けて支援を行っていきます。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和4年8月

1 農作業安全研修会，さとうきびハーベスタ連絡会の開催（R4.7.28）

7月28日，沖永良部島のさとうきびハーベスタ利用者と和泊町および知名町の園芸振興会支部長を対象に農作業安全研修会を開催し，生産者38人，関係機関の担当者13人が出席しました。

研修会では，農研機構の研究者から，効果のある事故対策について事例を交えて分かりやすく講演いただきました。また，研修会前のさとうきびハーベスタ連絡会では，収穫時の助手の必要性や安全確保について活発に意見交換がなされました。

今後も研修会等により事故防止を呼びかけていきます。



2 離島間輸送バガスの畜舎敷料としての活用模索（R4.8.7）

与論島では慢性的に敷料不足が問題となっています。敷料とは畜舎の床に敷いて、家畜を保護するものであり，島内で利用可能なものにさとうきびのバガスがありますが，与論島では全て製糖工場の燃料として使用されており余剰がありません。

しかし，沖永良部島では余剰があったため，今回，試験的に沖永良部島のバガスを与論島に送り，使用する取組を8月7日に行いました。

輸送費込みで沖永良部島内価格の2.5倍となるものの，ラップフィルムで圧縮されたバガスを使用した農家からは、『今後も使用したい』との意見が多くありました。今後，来年以降の供給体制や敷料としての使用法等を検討していく予定です。



3 「よろん和牛女子」を設立（R4.8.9）

8月9日、与論町役場で、令和2年度から活動を支援していた畜産若手女性農業者を組織化する設立総会を開催しました。

名称は「よろん和牛女子」とし、規約、役員等を決定しました。このグループは関係機関が将来リーダーに育てたい若手女性7人を選定し、課題解決に取り組む活動を始めたもので、現在のメンバーは12人です。

当初から自主的な活動を目指しており、今回組織化となりました。当日は9人が出席し、今年の課題について検討しました。今後も農業普及課は、よろん和牛女子の活動と個々の目標達成を支援していきます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和4年9月

1 与論トルコ部会，電照栽培挑戦に向けて検討会開催（R4.9.6）

9月6日，与論町トルコギキョウ部会は電照栽培検討会を開催し，生産者，関係機関の7人が参加しました。冬期の曇天による品質低下等の生産課題を解決するため，7月に産地情報収集を行い，他産地の事例を参考に電照栽培による品質向上や出荷時期調整に挑戦することとなりました。

会の中で，与論町内で生産される品種のうち品質，出荷時期に課題がある品種を選定しました。今後，電照を10月から開始し，1～3月に効果を確認する予定です。

生産者は「安定生産につながる技術を試していきたい」と積極的であり，今後も取組を支援していきます。

2 与論島の野菜部門現地就農トレーナー研修会で新技術・新システムを学ぶ！ （R4.9.14）

9月14日，与論地区指導農業士会主催の野菜部門研修会が開催され，青年農業者，関係機関等15人が参加しました。研修会は野菜部門の実証ほ場を巡回し，さといも疫病や連作障害に対する新たな耕種の防除技術を学ぶとともに，堆肥利用による肥料高騰対策実証や営農支援システムを利用したさとうきび受託調整実証活動についても理解を深めました。

指導農業士から『新技術・新システムに積極的に挑戦した事例はとても参考になる。これらの情報は地域の農家に広く伝えてほしい』とのアドバイスがありました。



3 スプレーマムのスマートフラワー規格や鮮度保持技術の改善実証を行う

沖永良部花き専門農協は、7月から全国で初めて実需者のゴミ削減と流通コスト低減が期待できるスマートフラワー（通常より10cm短くした70cm規格）のスプレーマム全量出荷を行っています。

今回、スマートフラワー規格や鮮度保持技術の改善を目的に、8月22日から千葉県の切花加工業者と連携して実証に取り組み、脱葉40cmが適当であること、鮮度保持シートを用いた冷蔵貯蔵でも従来並の鮮度になることを確認できました。

今後も実需者ニーズにあった商品作りを支援していきます。



4 夏秋スプレーマム県育成系統の品種化検討会を開催（R4.9.20）

沖永良部の夏秋スプレーマムは、近年市場評価が高く、生産拡大している品目です。9月20日、花き専門農協会議室で生産者、関係機関併せて14人が参加し、夏秋スプレーマム県育成系統の品種化検討会を開催しました。母株の増殖性、8月・9月の生育開花特性、日持ち等を総合的に判断して、有望系統4系統が選定されました。

生産者からは『県育成系統は有望で大変期待している。特に白系を早急に品種化してほしい』という意見が多く寄せられました。



5 クルクマの横箱乾式輸送について検討を行う（R4.9.21）

9月21日、花き専門農協が6月30日から取り組んだ流通コスト低減や廃棄物等削減を目的としたクルクマの横箱乾式輸送実証結果の検討を行いました。東京、宮城の花市場2社、資材会社1社、販売店2社で、従来の縦箱湿式輸送と比較して切花品質に大きな問題はないことを確認し、次年度は、一部で横箱乾式輸送に取り組み、出荷方法の改善を図っていくこととなりました。

また、販売店からの沖永良部産のクルクマの品質評価は高く、今後も出荷継続してほしいとの要望もあったため、引き続きこれらの取組を進めていきます。



横箱乾式輸送



縦箱湿式輸送

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和4年10月

1 夏秋スプレーマムスマートフラワー規格で出荷本数・販売額増加

今年7月からスマートフラワー規格で全量出荷が行われている夏秋スプレーマムは、梅雨の長雨による病害発生や夏場の台風による欠航で厳しい生産・出荷状況の中、7～9月の出荷本数が約226万本（前年比約1割増）、販売額が前年比3割増と好結果でした。この要因は8月盆、9月彼岸出荷が計画的にできたこと、相対契約が増加したことによるものと考えられます。

この結果を受けて、生産者の次年度への栽培意欲も高まっています。農業普及課は引き続き生産安定の支援を行っていきます。

夏秋スプレーマムの主力品種



2 花き法人が全国優良経営体表彰で農林水産省経営局長賞を受賞

本年6月1日に法人設立した和泊町の(株)スエカワFarmが令和4年度全国優良経営体表彰で農林水産省経営局長賞を受賞しました。同社は、生産・販売で地理的に不利な離島地域において平張施設を先駆的に導入し、スプレーギクを周年出荷しています。

土づくりにこだわり、土壌診断に基づく施肥と細やかな管理により、県平均を大きく上回る単収・単価を実現したこと等が評価され今回の受賞となりました。

農業普及課は、今後も地域のモデルとなるような経営体の育成、法人志向農家への支援を進めていきます。

3 沖永良部で母牛繁殖管理と自給粗飼料生産の研修会を開催（R4.9.30, 10.19）

9月30日、10月19日に和泊町と知名町で母牛の繁殖管理と自給粗飼料生産に関する研修会を開催し、それぞれ約20人が参加しました。会では、母牛の1年1産の重要性とその具体的取組方法、さらに嗜好性が高く緻密な草地を形成するトランスバーラの栽培方法を説明しました。

室内研修会後は、トランスバーラの実証ほ場で、生育状況や植付方法を学ぶとともに、セルトレイ苗配布も行ったことから、今後栽培面積の拡大が期待されます。



4 与論島産さやいんげん 新品種に期待大！（R4.10.11）

10月11日、JAあまみ与論事業本部のさやいんげん栽培講習会に、生産者、関係機関等38人が参加しました。講習会では、農業普及課から低温、低日照に強いとされる新品種試験結果を説明しました。この品種は、慣行の品種に比べ、施設栽培（半促成）、露地栽培ともに20%以上増収し、曲がりも少ない特性があり、農家からの期待が高まっています。

種苗会社によると新品種が本格的に供給されるのは来年度であるため、本年は継続して実証し、栽培データを収集する予定です。



5 畑かん営農振興会の研修でさとうきび増収技術を学ぶ（R 4.10.12, 13）

10月12日、13日に知名町正名地区と田皆地区で畑かん営農振興会の研修会が開催され、農家や関係機関合わせて約30人が参加しました。会では、水利用推進リーダーの水利用状況やさとうきびほ場における土壌水分の推移を示し、降水量に応じたかん水の重要性を説明しました。その後、さとうきびの適期管理や病害虫防除といった基本技術や、堆肥活用による施肥量低減等について説明しました。

農業普及課は、今後も営農振興会の活動を支援し、畑かん営農に関する理解を促進していきます。



6 与論島初のさといも疫病アンケート調査を実施（R 4.10.24）

10月24日、JAあまみ与論事業本部のさといも栽培講習会に、農業者、関係機関等31人が参加しました。これに先だち、7月に初めてさといも疫病アンケート調査を全生産者120戸に実施し、58戸から回答を得ており、講習会では、アンケート分析結果及び対策を紹介しました。その中で疫病発生が少ない優良農家と多発農家の栽培管理状況をデータで示し、さといも疫病対策マニュアルを提案したところ、講習後には農家から活発な質疑が出るなど、次年度産への確かなやる気を感じられました。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和4年11月

1 農業・農村センスアップセミナーをハイブリッド方式で開催！（R4. 10. 25～26）

10月25日～26日，和泊町で有機農業及びG A Pをテーマとしたセンスアップセミナー（与論島参加者は25日のみWEB参加）を開催し，農業者や関係機関・団体の87人が参加しました。講師から，有機農業を取り巻く状況や有機J A S規格，本県の現状と課題，有機栽培で直面する課題や取り組む際の留意点など，長年栽培に取り組んできたからこそ得られた貴重な話をいただきました。併せて，与論島における耕畜連携の普及活動事例についても紹介しました。

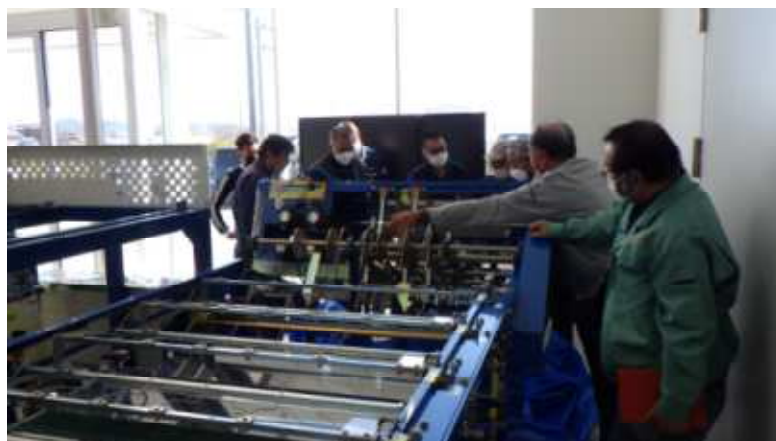
翌日は，32人が参加のもと和泊町のG G A P取組農家集荷調整場で現地研修を行いました。2日間を通じて，参加者からの質疑応答も活発に行われ，有機農業やG A Pについての理解と関心を高める有意義な会となりました。



2 スプレーマム，スマートフラワー規格対応の新選花機の検証を行う（R4. 10. 26～27）

花き専門農協は実需者のゴミ削減と流通コスト低減が期待できるスプレーマムのスマートフラワー（通常より茎を短くした長さ70cm規格）の全量出荷に7月から全国初に取り組んでいます。そこで，10月26日～27日に福岡でメーカーとこの規格に対応する選花機の検証を行った結果，実需者ニーズの切花長65～70cm，脱葉範囲40cmまで自動で選花・結束できることが確認できました。

今後，ロボット選花機の導入に向けた支援を行っていきます。



3 さとうきび土づくり研修会および現地検討会の開催（与論島）（R4. 11. 7）

11月7日、与論町のさとうきび生産者を対象に土づくり研修会と堆肥施用実証ほやビレットプランタ植付けほ場の現地検討会を開催し、18人が参加しました。

土づくり研修会では、家畜糞堆肥のさとうきびへの施用効果や、化学肥料削減を目的に、肥料としての堆肥の活用法について説明しました。現地検討会では、堆肥施用実証ほの堆肥投入量による生育の違いを確認してもらい、ビレットプランタ植付けほ場では発芽状況を昨年度と比較し、苗質の重要性を再確認してもらうことができました。



4 沖永良部花き女性生産者、花の仲卸業者と生産・販売の意見交換（R4. 11. 8）

11月8日、第2回えらぶの花マーケティング研修会に地域の女性生産者9人と関係機関併せて18人が参加しました。

研修会では、花の総合仲卸業者からコロナウイルス拡大後の花き販売の情勢、消費傾向、ネットやアプリを活用した情報発信等の紹介がありました。参加者から自身が好きな花色や花形の需要を知りたい、市場や花屋さんが欲しい花は何か等、女性の立場で考える花づくりについて積極的な意見交換が行われました。

農業普及課は引き続き、女性生産者による花き振興を支援していきます。



5 えらぶの花マーケティング戦略会議開催！（R4.11.9）

11月9日、えらぶの花マーケティング戦略会議（地域振興推進事業）が開催されました。えらぶの花推進協議会の会員15人が参加し、花の総合仲卸業者と意見交換の結果、テッポウユリ「咲八姫」のブランディングやJR博多駅で開催されるイベントを活用したえらぶの花のPR活動を行うこととなりました。その他、沖永良部の花き主要品目毎に生産・流通・販売面の課題整理・取組について検討できました。

今後ロードマップ等を作成し、えらぶの花き振興を進めていきます。



6 新規就農者が農業の基礎知識を学ぶ（R4.11.10～24）

11月10日～24日の各木曜日の夜、令和元年度から令和3年度の新規就農者を対象に新規就農基礎講座を開催しました。

講座は3回に分け実施し、与論はWEB参加しました。1回目の「病害虫」と「農作業安全」に11人、2回目の「土壌肥料」と「畑かん水利用」に17人、3回目の「農業経営」と「家畜飼養」に17人が参加し、各担当が講義しました。

今後も地域担い手協議会と連携し、個別巡回や専門講座等で新規就農者の支援を行っていきます。



7 さとうきび土づくり研修会の開催（沖永良部島）（R4. 11. 14）

11月14日、沖永良部さとうきび生産対策本部支部長会後に土づくり研修会を実施し、支部長30人、関係機関19人が出席しました。

研修会では、昨年度の土壌分析結果（産地生産基盤パワーアップ事業、1022ほ場）から取りまとめた沖永良部島のさとうきびほ場の現状（50%程度が低pH）や、土壌pH矯正の必要性及び、家畜糞堆肥のさとうきびへの施用効果や、化学肥料削減のため、肥料としての堆肥の活用法について説明しました。参加者は熱心に聴講し、自身の栽培管理に生かしたいとの感想がありました。



8 肥料高騰対策実証ほ設置（R4. 11. 16）

11月16日、和泊町技連会野菜部会で、ばれいしょの肥料高騰対策の実証ほを設置しました。

主力品種のホッカイコガネで、地域の施肥基準のオール14（140kg/10a）の削減、価格の安い肥料銘柄への変更を目的に、鶏ふんペレット堆肥による一部代替区、キビ配合BB539への変更区等を設けました。

農業普及課では和泊町、知名町野菜担当で生育、収量のデータを共有し、次年度取り組む化学肥料削減に生かしていきます。